

『Mind Charging』

第 183 回 発行：入試広報室 発行日：令和 3 年 1 月 8 日

法然上人の名言



一丈の堀を越えんと思わん人は、 一丈五尺を越えんと励むべし。

一丈とは約 3 メートルです。約 3 メートル幅の堀を飛び越えようと思うのであれば、その 1.5 倍を飛び越えられるように努力しなければ達成できないという言葉です。

例えば受験の時に志望校に合格できるギリギリのレベルまでしか努力しなかった時に、受験当日に自信を持って挑戦できるでしょうか。勉強のやり残しに対する不安でベストを尽くせず、目標達成は難しいのではないのでしょうか。勉強だけでなく、受験に必要なのは筆記用具もあります。鉛筆の準備は一本だけで十分ですか？本来は問題ありませんが、『落としたり芯が折れるといけないから 3 本くらいは一応持っていくべきだな・・・』と思って数本持っていきますよね？このように、“準備”というものは必要最低限では十分とは言えません。先に述べたように少しでも多くの自信を持って挑戦するために“これで大丈夫だ！”という『心の準備』も非常に重要なのです。何かに挑戦する時に時々耳にする『ぶつつけ本番』や『当たって砕ける』などの言葉は、表面だけを見ると全く準備をしていないまま本番を迎えるように感じますが、専門的な準備は不足しているものの、普段から様々なことを想定した上で過ごしていることで“戦い方”のイメージがついていたり、本気でぶつかっていけば砕く(クリアする)ことができるだけの自信はあるということではないでしょうか。

今回の言葉は本校が宗門関係学校である『浄土宗』の開祖と仰がれた『法然上人』の言葉です。そして、校訓である『選択・専修』という言葉も今回の言葉に繋がるものだと思います。正しく選び取り、ひたすらに打ち込んでいくことによって自分の人生を豊かなものにする“十分な準備”を正智深谷で整え、卒業時には『準備万端！』という自信を持って次の舞台に飛び出していけるよう、今を大切にしていきましょう！（編集委員：入試広報室 鈴木）

法然(ほうねん、長承 2 年(1133 年) - 建暦 2 年(1212 年))は、平安時代末期から鎌倉時代初期の日本の僧である。はじめ山門(比叡山)で天台宗の教学を学び、承安 5 年(1175 年)、専ら阿弥陀仏の誓いを信じ「南無阿弥陀仏」と念仏を唱えれば、死後は平等に往生できるという専修念仏の教えを説き、のちに浄土宗の開祖と仰がれた。法然は房号で、諱は源空(げんくう)。幼名を勢至丸。通称は黒谷上人・吉水上人とも。(Wikipedia 参照)